

# 茶研究 最前線

～県立大から～ ●●5

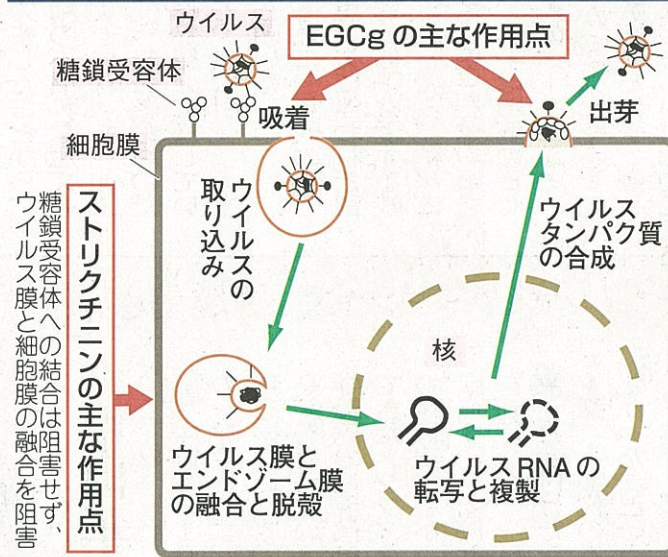
冬はインフルエンザ流行の季節である。インフルエンザウイルスは、ウイルス粒子の表面からスパイク状に突き出したヘマグルチンとノイラミニダーゼと呼ばれる2種類のタンパク質を利用して、喉や鼻腔の細胞に感染する。ヘマグルチンは主にウイルスが細胞表面に吸着して細胞内に侵入するときに働く。ノイラミニダーゼはウイルスの吸着や侵入の際にも働くことがわかってきた。

緑茶にはウイルスの感染を抑える成分が含まれている。EGCgなどのカテキン類はその代表である。

## インフルエンザ予防

## ストリクチニンが感染阻害

### インフルエンザウイルスの増殖過程



EGCgは、ウイルスのスパイクタンパク質の働きを抑えることで感染阻害作用を示す。

今回、カテキン類とは異なるポリフェノール的一种で、乾燥茶葉中に0・5%

インフルエンザウイルスの感染におけるストリクチニンとEGCgの主な作用メカニズム。EGCgは、ウイルスの吸着とウイルスが細胞から遊離する過程を阻害するが、ストリクチニンはウイルスが細胞内に侵入する際のウイルス膜と細胞膜の融合を阻害する。

ストリクチニンの主な作用点  
糖鎖受容体への結合は阻害せず、ウイルス膜と細胞膜の融合を阻害

EGCgの主な作用点  
糖鎖受容体

ウイルスの増殖過程  
吸着、取り込み、膜と膜の融合と脱殻、ウイルスRNAの転写と複製、出芽

ストリクチニンの主な作用点  
糖鎖受容体への結合は阻害せず、ウイルス膜と細胞膜の融合を阻害

今回、カテキン類とは異なるポリフェノール的一种で、乾燥茶葉中に0・5%

EGCgは、ウイルスのスパイクタンパク質の働きを抑えることで感染阻害作用を示す。

今回、カテキン類とは異なるポリフェノール的一种で、乾燥茶葉中に0・5%

ストリクチニンの抗ウイルス作用はEGCgなどのカテキン類とともにインフルエンザウイルスの感染を抑える成分として期待される。

(鈴木隆・薬学部教授)